

島根県立大と知夫村 健康推進などで協定

島根県立大と同県知夫村がこのほど、地域づくりや保健医療福祉の向上、学術研究などを推進するための包括連携協定を結んだ。知夫村のある知夫里島を新たな研究フィールドと位置付け、年間30〜40人程度の教員と学生らが訪問。成果を健康推進事業などで村民に還元する。

県立大はこれまでも健康診断や介護予防教室を開くなど人口約660人の知夫村と関わりがあり、さらに

協定書を手にして握手を交わす平木伴佳村長（左）と清原正義学長（右）
知夫村、村役場



活動を活発化させようと協定締結を提案した。

清原正義学長と山下一也副学長らが村役場を訪れ、

平木伴佳村長と共に協定書に調印。清原学長は、既に活動実績がある出雲キャンパス（看護栄養学部）に限らず、浜田、松江両キャンパスを含めた連携の仕組みを構築したいとあいさつした。平木村長も、高齢者の健康づくりだけでなく、小中学生との交流や学習指導、介護実習などの取り組みにも期待していると述べた。

県立大が県内自治体と包括協定を結ぶのは6市町村目で、知夫村が大学と包括協定を結ぶのは島根大学に続き2校目。（松本稔史）

ほんがほんが without thinking anything (のらりくらり、ぼーっとしている)



憎めないかわいさを感じ

「ほんがほんが」は憎めないかわいさを感じる。シャキシャキ過ぎていて、つつい隙間時間にいる人。隙がなくてずっと一緒にいると疲れてしまうこともある。けれどほんがほんがしている人は動物に例えるならカピバラとかラクダとか、ほのぼのゆったり草を食べているようなイメージがある。

こんな忙しい時代だからこそ本当は、ほんがほんがする隙が大事なかもしれない。

結局のところ貪欲性なの具合だ。

だな、私は…と思うこの頃。ぼーっとしたりする時間は好きなのだがつついその、ぼーっとする時間にも、あ、あれもやっておこう、これも気になる、となってしまふのだ。どうも何もせずにぼーっとするのが得意ではない性分なのだ。

小さい頃からピアノの先生に「10分あったら音階の練習をしないさい」と言われ続け、割烹料理屋を営んでいた実家では「手が空いて」ということだが何だかこの

心地よいペースや時間の流れというのには人によって異なるもの。私はこんなふうにせっかちな性分だが、不思議と親友と一緒にいて心地よいと感じる人は皆ゆつたりのおんびりした人が多い。きっと同じ性分同士だからなのかもしれない。

出雲弁で「ほんがほんが」と言えば「のらりくらり」とか「ぼーっ」としている「

市掛合町在住）
（ミュージシャン、雲南第2金曜掲載）



このさん(この人)は、ほんがほんがしとるが〜(撮影・高嶋敏展)